

ロックウールに代わる繊維培地を用いたいちご栽培技術

令和2年度 将来のふくいを牽引する技術開発支援事業
「福井県の繊維技術を応用した低コスト培地での苺生産実証実験」

明城ファーム株式会社、前田工織株式会社、グラス IT フィールズ株式会社
仁愛大学、福井県立大学、福井県農業試験場、丹南農林総合事務所
福井県工業技術センター、ふくい産業支援センター

開発内容・製品化内容

「低コストで高収量となる栽培技術の開発」

- ・養液栽培に多用されるロックウール培地のデメリット：高価格
- ・工業技術センター、県内企業等と連携し県補助金活用の実験プロジェクト化
- ・福井県で生産される繊維系資材を培地に活用、不織布の応用や IoT 技術活用
- ・新規培地の耐菌性能評価や透水試験などを実施
- ・低コストで高収量となる栽培技術を開発

アピールポイント

繊維系資材の透水性（排水溝面積比率と培地排水性への影響）を実験的に評価。複数のテストベッドで培地構成を変えてイチゴ栽培の実証実験を実施。結果、コスト、収穫量ともに従来の栽培方法よりも良い結果を取得。

福井県立大学、福井県農業試験場と共同で、敷地内のピシウム菌の除去方法などを検討し、苺生産における実質的な菌対策運用手法など導入。仁愛大学とは栽培苺の味覚を評価、糖酸比、カリウム、ビタミン C 等の量が従来法よりも良い結果を確認。今後の製品化に向けて実験と検討を継続しています。



新たな繊維培地を施設したイチゴ栽培



複数条件でのテストベッドでの苺生産実証実験